

# 議会だより そとがはま

第49号

平成29年8月

議会を傍聴しませんか

◆ 次の定例会は  
9月4日～8日予定

外ヶ浜町公式ホームページ ● <http://www.town.sotogahama.lg.jp>



7/1 「運動会」風のまちこども園

## 目次

- 第96回6月定例会／2～5
- 一般質問：5議員が登壇／6～10

- 常任委員会視察研修／11
- 議会特別委員会活動報告／12

# 山崎町長就任後 新しい風を町政に 初定例会に挑む

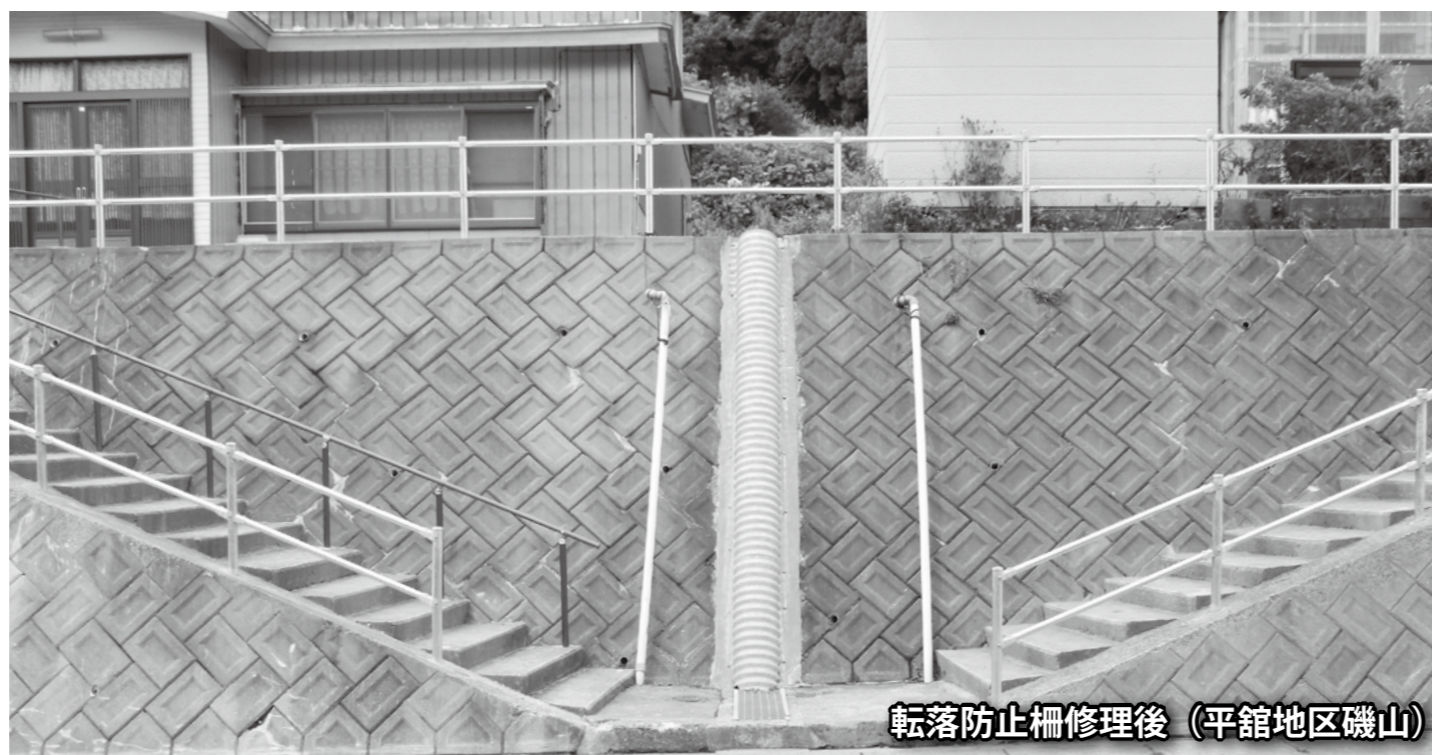
## 6月定例会

6月定例会は、6月6日から8日までの3日間の日程で開催されました。

今定例会では町長から提出された補正予算案、町条例の一部改正案、条例の制定、工事請負契約の件、人事案件など13件を審議し原案のとおり可決・同意しました。

一般質問は5人の議員が登壇し、通告順に掲載しています。

## 転落防止柵に予算計上



転落防止柵修理後（平館地区磯山）

## 質疑

**問** 観光施設管理費の部分で、昨年から3地区の海水浴場でキャンプ等が禁止の看板が立っているが、それは利用者の問題があり全て禁止となった経緯がある。キャンプする人達から多数要望が出ているが、今年是利用させるのか伺う。

**答** キャンプ場は実施予定で、始まる前には看板を全て撤去したい。

キャンプは  
マナーを守って

**問** 道路維持費の修繕95万1000円の場所を伺う。

**答** 平館地区磯山のカーブで、ブロック積みの上の家屋の転落防止柵が老朽化しているので計上した。

### ●一般会計・特別会計

会計名	補正額	補正後の予算額
一般会計	5,636万7千円	55億636万7千円
国民健康保険特別会計	132万1千円	12億9,632万1千円
介護保険特別会計	56万5千円	12億656万5千円
後期高齢者医療特別会計	29万8千円	8,829万8千円

## 医師の確保対策 医師のうち院長・副院長の定年を延長



秋山昌希院長

**問** 外ヶ浜中央病院の院長及び副院長の定年を2年延長して、67歳までとするのは、2年延長で助かる部分もあるが、2年延長したから安心ではなく、一旦定年になった後も医師として来てもらうことが出来るのか伺う。

**答** 院長・副院長から定年後も出来れば勤めさせていたいただきたいということである。

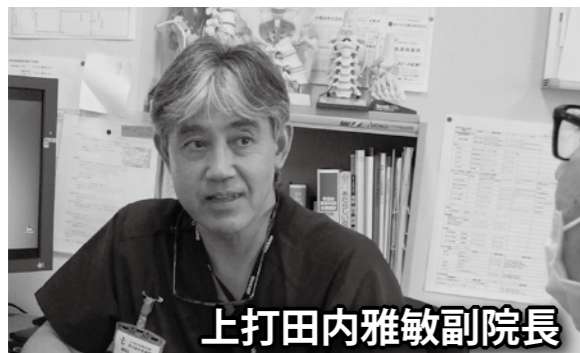
**問** 介護保険制度の改正もあり、現在特養ホームに要介護1・2で入所した方はそのままだが、今度原則として要介護3以上でなければ入所することが出来なくなっている状況で、現在各施設全体で特養ホームの申込み、待機者の数がどれくらいあるか伺う。

**答** 具体的な数字は統計上とっていないが、入居が厳しくなって、希望者が少なくなっている現状である。

る。待機者の状況は約40名近いと認識している。

**問** 外ヶ浜町の方が地元の特養に入所して、元の施設に空きが出来たら入所したいと考えている方の声を聞いて対応していただきたい。

**答** 町内の施設に移りたいという希望があれば福祉課の包括支援センターに相談いただきたい。



上打田内雅敏副院長

# 防災行政無線施設デジタル化 整備工事に2億7972万円を可決



役場本庁防災無線 (整備前)

**問** 防災無線施設のデジタル化の整備とあるが、広報無線が非常に聞こえないという声があり、災害時、緊急な無線が聞こえない場合、困ることがあると考え、今後どのように検討しているか伺う。

**答** アナログが廃止され、デジタル化の工事の中で子局を22局から29局に増やし、必要な所に増やして必要でない所は節約するという方法をとっている。今の工事の状況でそれを改善し、地域の方には、無線が聞こえたら窓を開けてそれに耳を傾けていただくこともお願いし、整備を進めていきたい。

## 請願

### 農業者戸別所得補償制度の復活を求める請願

請願者の住所・氏名	請願第1号(平成28年度) 東津軽郡蓬田村阿弥陀川汐干198・57 東青農民組合 代表者 組合長 木村洋一
紹介議員	原 芳雄 安藤英博
付託 常任委員会	産業建設常任委員会
審議結果	採択すべきものと決定
採択 本会議での採択	採択 全員賛成

提出先  
・衆議院議長・参議院議長・財務大臣  
・内閣総理大臣・農林水産大臣  
宛に提出しました。

## 固定資産評価審査委員 選任

平成29年6月22日で任期満了となることから、議会の同意を得るため提案され、満場一致で同意されました。任期は、平成32年6月22日まで



北田 定光 氏



余地 久信 氏



濱谷 修 氏

## 監査委員 選任



高坂 義昭 氏

平成29年7月14日で任期満了となることから、議会の同意を得るため提案され、満場一致で同意されました。任期は、平成33年7月14日まで

## 教育委員 任命



五十嵐 義人 氏

平成29年6月17日で岡本 盈男氏が任期満了となることから、五十嵐義人氏が提案され賛成9、反対1で同意されました。任期は、平成33年6月17日まで

## 選挙管理委員・補充員 選任

委員

補充員

(順序は右の方からの順となります。)



宮田 宏志 氏



福井 義範 氏

任期は、平成33年6月16日まで



山内 俊二 氏



石岡 雄一 氏



鈴木 直 氏



宮本 友博 氏



小川 一彦 氏



丸山 光男 氏



石岡 勉議員

# 「新しい風」を掲げる山崎新町長の考えは

■答弁▼各事業の規模、継続の有無について検討していきたい

◆質問1／ホタテ残渣処理以外でも町長の任期4年間に成し遂げたいものがあるれば示していただきたい。

■町長／予算を組み替えるのは難しいが、各事業の進行は、まだまだ検証が足りていないところもあり、各事業の規模、継続の有無について検討していきたい。

◆質問2／選挙戦で町長は、残渣処理場を建設という言葉が出ていたが、従来町では、ホタテの残渣処理は焼却処分で行っていたが、町長が考えるホタテ残渣処理とは、いかなる方法で最終的に処分をするのか伺う。

■町長／現在さまざまな案を検討しているが、最終的な処分は、グリーンハート外ヶ浜での焼却処分というふうを考える。しかし、塩分濃度や容量

を減らすために、一時保管及び前処理として焼却以外の方法も検討していきたい。

◆再質問／ホタテ生産者は、残渣の処分料を価格転嫁できない。だからこそ町の支援が必要だと私も町長も考えは同じだと思ふ。しかし、漁業者、漁協が主体的に、解決する考えを持たなければならぬと思うが、町長の考えを伺う。

■町長／今まで町、漁協、漁師の仲が余りよくなく、ごたごたしていた部分をフラットにして一緒に話し合う場を持つることが一番の御要望と聞きました。私も含めて、事務方同士の3者が話し合いを出来る機会を設けていきたい。

候補地であった下小国地区を含め、外黒山地区から大平地区までの7地区から建設反対の申し入れの文書が出された。町長の考えを伺う。

■町長／残渣問題に関しては、私の一丁目一番地として掲げているもので、場所の選定というのが今一番、頭を悩ませているところである。今年中でも交渉が始められるように、一日でも早く取り組んでいく。

◆質問3／町長は選挙戦を通じて龍飛方面に行けば、これは私がやるんだ。焼けた燃え殻の処理から新たな地域づくりをやるんだと、演説していた。選挙のために言ったとは思いたくないが、町がそれを片付けなければならぬ根拠がどこにあるか伺う。



三厩地区龍浜火災跡地



安藤英博議員

# 山崎町長の選挙公約である

## 3つの新しい風の実現について

■答弁▼第一に住民の声、行政に対する意見、要望を伺うこと

◆質問1／町長は3つの風の中で、強く夢のある第一次産業の育成。2つ目は安心できる医療、防災体制、さらに充実した教育、福祉。3つ目には

新しい観光資源と交流人口の創出ということだが、外ヶ浜町にとっては非常に大事なことである。高齢者が多い中で子ども達や大人まで安心して暮らせるように山崎新町長の公約を、着々と町民のために実現してほしいと思

て考え直すことも必要ではないか。

◆質問2／行政は一部の権力者または特定の人達の利益でやってはならない。住民が主体の行政を進めるために町長の基本的な考えを求める。

■町長／町民の声に耳を傾け町民の皆さんとともに進んでいく。そのことが町民が主人公のまちづくりの町政を実現することになる。

森内前町長が、私どもの質問で町民の要望を一つ一つ実現させて来たことは町民にとっては宝である。是非、良いものは引き継いでいってほしい。不要不急のものは取りやめるなど十分検証し

■町長／前町長のやってきたことですばらしいと思われるものや、住民の皆さんが求めているものに対しては、さりとて決断して考えてはいいない。

◆質問3／地域活性化のために地元の業者や地域が潤う町を町長はどのように考えているか。

■町長／可能な限り地元の業者にお願ひすることがいいと思っている。

一つ一つ実現させて来たことは町民にとっては宝である。是非、良いものは引き継いでいってほしい。不要不急のものは取りやめるなど十分検証し

■町長／町長は3つの風の中で、強く夢のある第一次産業の育成。2つ目は安心できる医療、防災体制、さらに充実した教育、福祉。3つ目には

◆質問4／公平公正な行政運営と町の行事やイベント等は町民総参加型の方向で進めていただきたい。

■町長／今までと同様、町民参加を願うものである。

◆質問／この度、臨時福祉給付金の支給通知書に大鰐町の公印が印刷されていたことに対して町としての責任をきちんと取るべきであると思うが。

■副町長／当然業者にも責任があるが、町側がチェックを怠ったことで、全て町の責任でこれまで対応させていただいた。

◆質問／町長は3つの風の中で、強く夢のある第一次産業の育成。2つ目は安心できる医療、防災体制、さらに充実した教育、福祉。3つ目には

■副町長／町が火災ごみをやらなければいけないのはなく、あくまでも所有者が処理するという考え方は変わっていない。

◆質問1／町長は3つの風の中で、強く夢のある第一次産業の育成。2つ目は安心できる医療、防災体制、さらに充実した教育、福祉。3つ目には

て考え直すことも必要ではないか。

■町長／町長は3つの風の中で、強く夢のある第一次産業の育成。2つ目は安心できる医療、防災体制、さらに充実した教育、福祉。3つ目には

■町長／町長は3つの風の中で、強く夢のある第一次産業の育成。2つ目は安心できる医療、防災体制、さらに充実した教育、福祉。3つ目には





原 芳雄議員

# 外ヶ浜中央病院の強化、充実を―

## 退職医師の補充は

■答弁▼今年度に入ってから急遽の退職で県病からの派遣は難しい

は常勤医師が4名、三階診療所が1名で充足率が足りないわけではない。高齢者の亡くなる方も増え、年々外来患者が減少傾向にあり今後の動向を見ながら検討したい。

■中央病院事務長／4月に中野副院長が退職した。補充は今年度に入ってから急遽のことで県病からの派遣は難しく、今年度は5名体制である。

広域事務組合病院化を検討しては

◆質問／上磯で唯一の中核病院として、蓬田村、今別町と一体となって広域事務組合化を進め地域医療の確保に取り組みることが必要ではないか。

■町長／県は、平成28年3月に地域医療体制の将来あるべき姿を定める「青森県地域医療構想」を策定した。青森県立中央病院及び青森市民病院などの自治体病院等の再編、ネットワーク化を検討する専門部会の調整会議で、再編の方向が決まった段階で検討したい。

■町長／県は、平成28年3月に地域医療体制の将来あるべき姿を定める「青森県地域医療構想」を策定した。青森県立中央病院及び青森市民病院などの自治体病院等の再編、ネットワーク化を検討する専門部会の調整会議で、再編の方向が決まった段階で検討したい。

■中央病院事務長／今は蓬田村、今別町との連携で患者さんのほか施設の



外ヶ浜中央病院

■町長／平成25年に院内で「MRI院内建設検討委員会」を設置した。その中で県の指導を受けながら検討を進めてきたが、建設場所や職員の確保、さらには経営状態を含めて協議した結果、今

訪問を行っている。広域事務組合化については、再度関係市町村と協議をしながら検討したい。

MRIの設置を

◆質問／現在、病院にMRIがなく、設置している病院に紹介してもらいそこで撮ってもらっている。高価な機械であつても上磯住民の命と健康を守るため設置する必要があると考えるが。

■町長／平成25年に院内で「MRI院内建設検討委員会」を設置した。その中で県の指導を受けながら検討を進めてきたが、建設場所や職員の確保、さらには経営状態を含めて協議した結果、今

後は病院の建て替えを目前に導入を検討していきたい。

「たんぼぼ」に新たな介護資格者を

◆質問／『介護老人保健施設たんぼぼ』には、さまざまな介護の資格をもつ職員がいるが、言語聴覚士や作業療法士等がない。必要ではないか。

■町長／在宅復帰のために動作や言語、心身両方の回復を援助するためには訓練は欠かせないものだと考えている。今後の利用状況と人数などをみながら検討していきたい。



記田慶市議員

# 町政を担う基本姿勢について

■答弁▼町民の意見と要望をしっかりと聞く

れることなく頑張っている。ただくことを期待している。

急激な人口減少対策について

◆質問／全国の99%の町村が人口減少問題を抱えて、過疎化が進行してあり、1つの自治体での解決の難しさは、どなたが町長になっても、大変なことだと重々私も承知している。都会への一極集中の社会現象はもはや国の構造改革でなければ手の打ちようがないと思っ

■町長／全国の市町村においても皆、頭を抱える問題で私も最重要課題と認識している。同時に決定的な解決策についても全国自治体が頭を悩ませているとおりで現状を理解していただけないこととは、その減少スピードを緩めるための施策だと思っ

住宅及びバイパスなどのインフラ整備であったり、又各種イベントなどの地元PR事業を展開して来たことは御承知のとおりである。今後については今までやって来た事業展開はもちろん継承してい

くが、私としては地元の第一次産業の促進をしっかりと図ることに取り組むたい。このことにより地域の雇用を拡大したり、定住促進につなげていきたい。関係者の御意見を頂戴しながら進めたい。

◆質問／町民6400人の、トップリーダーとしての基本姿勢を伺う。  
■町長／町長としての基本姿勢は、町民の御意見と、御要望をしっかりと聞くことが基本と考えている。そういった中でさまざまな対応を求められることも多いと思うが、常に客観的にいろいろな面から見ることで、そして冷静に判断すること。その中で大事なことは将来を見据えた上での判断と対極的な視野が必要になってくると思う。町民第一の姿勢でこの4年間まい進したい。

◆要望／町政運営のスタートにいたればかりであり、町長の目標の実現に向けて、所信貫徹、ぶ

あつてこの町の町長となつた以上は、この急激な人口減少の現実を避けて通れない最重要課題と



龍飛・義経マラソン2017



杉谷和穂議員

## 地域資源を活かした観光振興を問う

### ■答弁▼新幹線駅を拠点に二次交通を整備

◆質問／津軽国定公園龍飛崎は雄大な自然景観のほか、観光施設や歴史的文化資源に恵まれている。町長は若い感性、新しい感覚で新たな観光振興をどう図っていかれるのか。

■町長／三厩駅からの循環バスが運行されており、さらに奥津軽いまべつ駅からの二次交通を整備することを是非やっていきたい。

■産業観光課長／今別町から三厩駅に循環バスが運行されている。そして乗り継ぎバスが出ているが、それだと龍飛をめぐる時間が足りないという声もあり、直接奥津軽いまべつ駅のほうから龍飛



三厩駅を出発する循環バス

### 龍飛地区の火災跡地の整備について

崎を巡回するバス運行を今後検討していきたい。

■要望／町長並びに担当課長からバス運行について前向きで積極的な答弁をいただきました。速やかに検討して1日も早く実現する事を期待しています。

■質問／龍飛地区の火災跡地の整備について、昨年の9月21日に発生した火災は、14棟を全焼した大火となった。

火災跡地は国定公園に指定されている観光地として重要な地域である。今後、観光開発を推進していくためにも整備が急務だと考える。また、階段国道や生活関連道路も整備が必要である。そのためには地権者や地区の関係者をメンバーに入れた協議会の設置も考えていかなければならないと思うが、考えを伺う。

■町長／観光資源である階段国道に隣接している土地で観光開発を進めていく上でも非常に周辺の整備は有効なことになると考えている。

■建設課長／県では町が対象地域に何をどう設置したいのか、レイアウト



階段国道（三厩地区）

したものを持示してほしい。その上で県が対応できる補助事業または県の単独事業があれば判断していきたいと伺っている。地元の方々、関係者における協議会の設置も当然必要になってくると思う。今後早期に対応したい。

## 食材を活用した町おこしを学ぶ

産業建設常任委員会では、6月28日と29日の2日間にわたり、西津軽郡の深浦町と鯉ヶ沢町を訪れ、先進地行政視察研修を行いました。

今回は、育てる漁業、消費者の希望に添った加工・流通システム、そして食材を活用した町おこしをテーマに、4カ所の現場を視察したほか、実際に食材を食べてみて学



深浦町であいさつをする福井委員長

んで参りました。

最初に訪れたのは、深浦町役場。青森県ご当地グルメの先駆けとなった、「深浦マグロステーキ丼」の発祥となった町です。担当者の観光課主幹・鈴木マグロー氏（俗称・町長が名付け親）から、深浦マグロステーキ丼を始めるきっかけや経緯について説明を受けた後、役場マグステ食堂（後、場庁舎1階で開設）で、実際に深浦マグロステーキ丼（1500円／食）を食べました。

この深浦マグロステーキ丼、平成25年6月のスタートから4年間で15万8千食を売り上げ、その経済波及効果は8億円超と言われています。担当者は、「観光振興と

は外貨を稼ぐこと」であり、旅先のおいしい「食」、旅先ならではの「食」により、それが可能になるのだと話されていました。

次に訪れたのは、同じ町内の（株）あおもり海山水産加工センター。平成27年から稼働したこのセンターでは、昨年の8月に国際的な衛生基準「ハサップ」を取得し、天然の近海クロマグロを熟成してから超冷凍保管する方法で、2年以上の長期保存を可能にした施設です。この日は、特別に処理場や冷凍庫等も見学させていただき、マグロ以外の魚種についても保存方法や販売方法について、意見交換をしました。

初日の最後に訪れたのが、同町岩崎地区にある（株）オカムラ食品工業（深浦中間養殖場です。現在、サーモンの稚魚30万尾を中間養殖しているというこの施設では、11月の産卵から翌年の6月まで育て、それ以降は海で育てるといったシステムをとっていました。

2日目は、鯉ヶ沢町イトウ養殖場を視察。幻の魚イトウの養殖についてその生態などのお話を伺いました。また、出荷方法等についても工夫を凝らし、現在は刺身や寿司、揚げ物等様々な料理で食べることが出来るということでした。私たちは、その日の昼食に刺身とお吸い物で味わいましたが、まさしく「幻の魚」でした。



イトウ養殖場の様子

今回は、2日間の研修でしたが、外ヶ浜町が抱える問題解決の糸口とすることが出来るよう、今後も研さんを続けて産業振興に活かしていきたいと思えます。

報告者

産業建設常任委員長

福井 賢一郎

## 少ない敷地で残渣を資源に

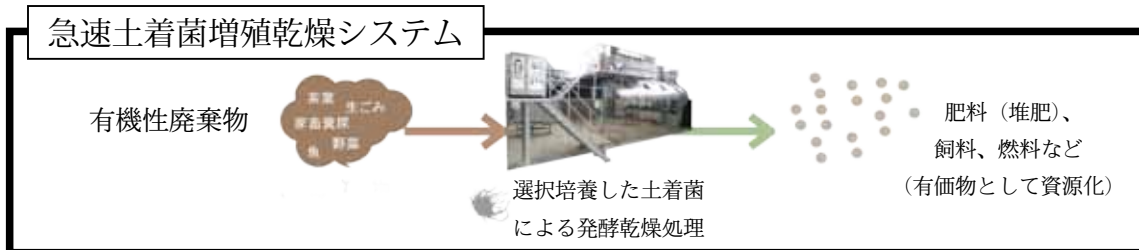
### ホタテ養殖残渣新処理方式を視察

平成29年8月8日から10日にかけて、茨城県筑西市にあるアグリル株式会社内ホタテ養殖残渣新処理方式機械設置施設を現地視察してきました。

視察には、議長や、議員を含む9名と、外ヶ浜漁業協同組合理事や町職員など総勢21名が参加しました。

今、当町では、ホタテ残渣処理時の悪臭や、処理施設を稼働する際の広い敷地の確保が問題となつていきます。視察では、新処理方式において処理過程で発生する臭いを実際に体験するとともに、処理施設に要する敷地面積を確認することが大きな目的でした。

今回の施設は、急速土着菌増殖乾燥システムという方式で、有機物（ホタテ養殖残渣等）を24時間という短時間で肥料や飼料、燃料などに資源化するものです。機械は長さが10メートル程度で、有機物を処理する方式です。



残渣の投入 機械の中へ ふるい分け 作業確認 上写真 成果品 下写真 入れ直してさらに細かく



処理施設で処理方式を学ぶ

当日は、残渣の投入から肥料等の出来上がりまでの工程を確認。

また、出来上がったものを実際に手に取って臭いを嗅ぐと、腐敗臭ではなく、どちらかといえば乾燥魚類に近い臭いでした。この成果品は、資源化することが出来、肥料として申し分のない成分分析結果が出ているそうです。

今回の視察結果を踏まえ当委員会では、町や漁協と連携を図りながらホタテ残渣処理に向けた検討を進めていくことにしています。

ホタテ貝残渣処理及び高水温被害対策委員会 委員長 高坂 茂

### 編集後記

6月定例会で山崎新町長との初論戦がスタートしました。一般質問の登壇者も5名というのは近頃になかった多さでした。それだけ新町長に対する期待が大きいうことでしよう。「町長と議会は車の両輪」という言葉は皆さんもよく耳にすると思います。どちらが先行してもちらが遅れてもうまく進まないということです。

私たちも改めてこの言葉を銘記して活発な議会論戦を戦わせて参りたいと思います。どうぞ町長ともども私たちが議会にも乞うご期待です。

(満)

### 議会広報特別委員会

委員長：安藤英博  
副委員長：三上 満  
委員：浜谷恭市/福井賢一郎  
原 芳雄/石岡博英  
記田慶市